

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970300273		
法人名	社会福祉法人 星風会		
事業所名	星風会グループホームこすもす		
所在地	栃木県栃木市惣社町121-3		
自己評価作成日	平成22年3月23日	評価結果市町村受理日	平成22年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成22年4月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に非常災害時に協力していただけるよう、非常通報装置(ホットライン)に登録してもらっています。 ・毎月1回施設内研修を行い、職員一人一人の能力アップにつなげています。(年度計画あり)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームはのどかな田園地帯にあり、広い敷地内には同法人のケアハウスや病院、特別養護老人ホームなどが隣接しており、行事等による交流が行われている他、専門スタッフによる医療面での連携も充実している。運営推進会議には入居者及び家族、地域住民による参加があり運営の参考になる意見をもらっている。人材の育成にも力を入れており、管理者及び職員は会議や研修等を通じてレベルアップに努めている。本人・家族にアンケートを実施し要望や意見を把握し、よりよいサービスの提供に努めている。地域住民とも買い物や散歩時、また、花見会、夏祭り、文化祭、初詣等を通じて交流を行っている他、近隣住民に緊急通報先として登録してもらっている等、地域との交流や協力を得て防災対策の強化も図られている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	少しずつではあるが、実践につなげる努力をしています。	設立当時から法人の運営方針をホームの理念としており、全職員の名札裏に表示している。また、各ユニットごとに年度目標を立てており、共に事務室内に掲示し、管理者・職員共に理念を意識しながらサービスの実践にあたるように心がけている。	ホームの現状に即した、全職員が共有できるホーム独自の理念の作成を考えていることから、全職員での協議のうえで独自の理念が作成されることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は外出の機会は少なかったが、地域運営推進会議を通し、こすもすと地域の情報をお互いが共有し、お正月に甘酒を提供して頂いたり、初詣に参加したり、少しずつ交流の機会が持てるようになっている。	運営推進会議や回覧板等で情報交換を行い、花見会、夏祭り、文化祭に来てもらっている他、近隣の神社に初詣に出かけたり、商店で買い物したりと、地域住民とは自然な交流が行われている。また、近隣の住民に緊急時のホットラインに登録してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	北エリアの地域交流事業でもある「こすもすフェスタ」を年1回開催し、利用者様の発表会の場を設けたり、各施設に作品を展示し、施設見学を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様参加の下、定期的で開催し、こすもすと地域からの情報をお互いが共有している。今年度は敬老祝賀会と新年祝賀会にボランティアの方々をご招待することができ、今までにない取り組みができた。	入居者代表、家族、地域包括支援センター職員、地域住民等がメンバーとなり、2ヶ月に1度開催をしている。外部評価結果や入居者や運営状況の報告を行ない意見をもらったり、情報交換の機会と捉え、サービスの向上につなげている。	歴史のある法人で地域とのつながりも深いことから、今後、これまで参加のない家族や自治会関係者、民生委員、消防団等の地域関係者の参加を適宜働きかけ、会議がより充実したものになるよう一層の取組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関することや利用者様の状態等については直接訪問した上で連携を図っている。	事務的な連絡や相談、報告等において必要な時は市担当部署に出向いている他、担当職員の来所もあり連携を深めている。北海道のグループホームの火災事故後には市、消防署への書類提出を行い、助言ももらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、全ての職員が理解しているとはいえない。徘徊を止めよとする声掛けなど、言葉による身体拘束があることも十分理解する必要がある。	身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。玄関はセンサーチャイムと職員の見守りにより、日中の施錠はしていない。職員へは職員会議等で禁止対象行為の確認や自分の言葉遣いのチェックを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は市の担当者の方をお招きし、高齢者虐待について学ぶ機会を設けた。虐待の種類や通報義務があること、逆に自分たちも通報される側にあることを認識することができた。		

星風会グループホームこすもす(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は外部研修に参加し、参加した職員が内部研修という形でこすもす内で勉強会の機会を設けることができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご本人とご家族の意向を確認し、不安や疑問点については時間をかけて話し合っている。今年度は利用料金等の改定があり、新たに書類を作成した上でご家族の来所時に説明し、理解を得ることができた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とご家族にアンケートを実施し、自由な意見を表せる機会を設け、運営推進会議においても結果を報告し、こすもすの運営に反映させている。	意見箱を玄関に設置している他、入居者及び家族全員にアンケートを実施し、意見や要望等の把握に努めている。出された意見や要望等は家族や運営推進会議にも報告を行い、ホームの運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を開催し、意見交換や情報の共有ができるようにしています。	毎月1回全体会議において外部研修結果の発表、伝達事項、各ユニットの報告等を行い意見交換、情報の共有を図っている。毎日の申送りや各ユニットごとの職員会議や各委員会を通じて、各職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に委員会等の役割分担を行っています。又資格取得時には給料に反映していません。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修の機会を設け、研修後は施設内での報告をし水平展開をしています。同時に自分で報告できる技量を身につける機会ともしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修を利用しています。		

星風会グループホームこすもす(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に見学に来て頂き、ご本人と面接をした上で不安や要望を確認し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談から入居に至るまでは連絡を密にとり、ご家族の不安や要望があれば時間をかけて話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を確認しながら、必要としている支援には優先順位を設けながら進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の生活歴を大切にしながら、できることは職員と一緒に、「共に生活している」という気持ちを持って頂けるような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全て施設にお任せではなく、入居してからもご家族としての役割を確認し合い、面会や外出の機会を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟や親戚、近所の方の面会があれば、ソファーやお部屋で一緒に過ごして頂き、その後も継続した面会ができるよう働き掛けている。馴染みの場所への外出支援は少ないように感じる。	昨年は感染症の流行の為に外出を自粛していたが、普段は本人の希望があれば行きつけの美容室に家族に連れて行ってもらったり、自宅近くにドライブに出かける支援もしており、できるかぎり馴染みの場所や人との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おしぼり干しや洗濯物たたみ等、簡単な家事を一緒に行ったり、レクリエーションを通して利用者様同士が関われる時間を大切にしている。		

星風会グループホームこすもす(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においても継続的な関わりが必要な方には包括支援センター、施設相談員、病院の連携室と連絡を密にとることでご本人、ご家族の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居以降も定期的にご本人の意向を確認し、可能な限りその思いが叶えられるよう努めている。	日常の会話の中から本人の希望や意向の把握に努めており、困難な場合には家族の面会時等に確認したうえで本人本位に検討している。ケース会議でも職員間で情報を確認し、介護計画書にも反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込みの段階で出来る限り確認しているが十分な聴き取りは難しく、入居前の実態調査を自宅で行うことで、その方の馴染みの暮らしや生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の細かい観察を継続することで、利用者様一人ひとりの状態を把握し、その方に合った過ごし方を尊重している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議の開催は毎回こすもすの職員(介護員・計画作成担当者)だけで行っているため、今後はご家族、訪問看護師等の関係者とも話し合い、介護支援計画に反映させていきたい。	日頃から本人や家族の意向の確認に努め、場合によっては訪問看護師の意見も参考にしながら、月に1回のケース会議を行ない本人の現状に即した介護計画を作成している。介護計画の見直しは、6ヶ月毎に実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活支援記録として個別に記載し、介護支援計画書に沿った記録にも取り組んでいるが、その日の出来事が中心になってしまい、ケアの実践や結果までの記録には至っていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事と入浴時間はある程度決められた時間になってしまうが、出来る限りご本人、ご家族の意向に沿った形で柔軟に対応している。しかし、その日の職員の状況(出勤人数等)によっては難しい場合もある。		

星風会グループホームこすもす(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はボランティアの受け入れにも取り組んできたが、地域資源との協働までには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以降も今までのかかりつけ医との関係を大切に、定期的を受診して頂いている。風邪などの突発的な症状に対しては星風会病院で対応している。	入居前からのかかりつけ医で受診できるよう家族の協力の下に支援している。必要により状態を書いた手紙を渡している。夜間時や突発的な症状の際には法人の病院で対応している。	入居者の希望に沿った受診支援の様子が伺えるが、家族との連携や職員の同行による受診支援をすることで状態の伝達や症状の把握も出来ることから対応方法の工夫を期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康チェックを受け、利用者様の細かい情報を伝達しているが、訪問日以外にも状態変化等があった場合は連携を密にし、一人ひとりに合った観察のポイントなどをアドバイスして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族了解の下、病診連携室や病棟と連絡を取り合い、病状の経過を確認したり、施設側からの情報を提供している。退院前にはご家族と一緒に同席させて頂き、主治医からお話を伺うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際は重度化した場合や終末期の対応についてご家族へ説明し、意思確認を行っているが、地域関係者と共にチームでの取り組みはできていない。今後は支援の在り方について再確認し、体制づくりに努めていきたい。	重度化や終末期への対応は入居時に家族に説明して意向の確認をしており、ホームでは本人及び家族が希望すれば看取りまで対応したいと考えている。現在は同法人の病院や特別養護老人ホームとの連携により対応することが多いが、今後は意向に沿った対応ができるような体制作りをしていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について看護師による内部研修を実施してきたが、定期的な開催までには至っておらず、全ての職員が実践力を身に付けているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、(うち1回は夜間)利用者様の避難方法を身につけてきた。今年度は緊急通報装置に地域住民の方々を登録し、協力体制を敷くことができた。今後更に強化していきたい。	年2回避難訓練を実施しており、内1回はケアハウスと合同で夜間訓練も実施している。今年度からはホームだけで毎月1回避難訓練を行うとしている他、近隣住民宅の6軒にも協力してもらい、緊急通報装置を登録してもらっている。	

星風会グループホームこすもす(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員がプライバシーを尊重した言葉掛けをしているとは言えない。その時々で感情で接している場面も見られる。職員会議の中で何度か取り上げながら対応の仕方を学んでいる。	日頃の話合いや職員会議の中で、入居者に対して人格を傷つけたりプライバシーを損ねないような言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。市職員を招き、高齢者の虐待防止について勉強も行っている。	入居者との日常のかかわりの中やトイレ誘導の際等において、職員から大きな声で促されると入居者の尊厳が損なわれる恐れがあることから、更に全職員が知識を深め、意識の向上に努められるような取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとりが持っている力を見極め、自己表現したり、自己決定できるような場面設定に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様を中心とし、出来る限り一人ひとりに合ったペースで過ごして頂けるよう努めているが、時間通り業務をこなそうとするあまり、職員側の都合を優先してしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は身だしなみを確認し、その日着たい服を自ら選んで頂くようにしている。散髪は訪問理容師さんをお願いしている方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食べ物やアレルギーのある利用者様には代替品を提供している。テーブル拭きや下膳は、できる利用者様は行っているが、調理への参加は殆どなく、職員が中心となって行っている。	献立は同法人のケアハウスの栄養士が作成し、会議において決定している。入居者から前もって希望を聞いたり、カロリーや苦手なもの、アレルギー等にも配慮している。入居者は食事の片付けやテーブル拭き等を手伝っている。職員は入居者と一緒に食べているが、検査者以外は持参した別の物を食べている。	地域密着型の家庭的な雰囲気考慮し、すべての職員が入居者と一緒に同じ物を食べられるような取組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方もおられるが、医師からの指示を基にその方に合った食事量、水分量を提供している。苦手な飲み物がある場合は、自宅から好きなものを持参して頂く場合もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の2回実施しているが昼食後は行っていない。義歯を使用している方には外して頂き、丁寧に磨けるよう、声掛けと一部援助を行っている。		

星風会グループホームこすもす(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを確認し、不快感を与えないよう、その方に合った声掛けと誘導を行っている。パッド交換は職員から手渡し、出来る限り本人が行えるよう支援している。	排泄指導について職員は良く勉強しており、入居者一人ひとりのパターンの把握に努め、できるだけ自分で不快感なく排泄できるように、声かけや誘導で工夫した支援をしている。トイレは車イスのまま入れるよう入口の改修を行った。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足になりがちであるため、毎朝のラジオ体操を継続し廊下を歩いたりしている。便秘がちの方には水分を多目に摂って頂いたり、腹部マッサージを行っているが、定期的に排便がない方は便秘薬の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事等がある場合は午前中になることもあるが、14:00～16:30の間に入浴して頂くことが多く、希望通りの入浴時間にはなっていない。しかし、一人ひとりに合った入浴方法でゆっくり時間をかけ入浴して頂いている。	日中の午後の時間帯で1日置きに入浴支援をしている。マンツーマンでの対応により、一人ひとりの好みの温度や時間、順番等、個々の要望を確認しながら気持ち良く入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使い慣れた好みの寝具類を使用している。寝具とリネン類は定期的に洗濯し、清潔な寝具で休んで頂いている。また、昼間傾眠がちの方には1時間程度休める時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様全員の内服薬の説明書はいつでも見られるようにファイリングしている。定時薬に変更があった場合や臨時薬が処方された場合は業務日誌と朝礼で申し送り、確実に把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出を楽しみにしている利用者様は多く、天候が良い日は出来る限り散歩へ出掛けられるよう支援してきたが、今年度は特に施設内で過ごす時間が多く、生活リズムもワンパターン化していた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に温泉旅行やお花見へ外泊できた方もいるが、今年度は新型インフルエンザの影響もあり、定期的な買い物便や殆どの外出行事を中止した。	散歩、買い物等の支援はその日の希望によって随時行っている。昨年は感染症流行の影響で外出を控えていたが、例年、年間5回程度の遠出や外食を行っている。家族の協力で温泉や自宅や娘さん宅での外泊をする方もいる。今年の正月には3ユニット合同で初詣に出かけることが出来た。	

星風会グループホームこすもす(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして毎月ご家族よりお預かりしている。自己管理を希望する利用者様もいるが、紛失等からトラブルになってしまうことが多く、現在は職員側で全て管理してしまっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の用件を伺い、職員側からご家族へ連絡をとることが殆どである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には家庭的な木目調のものを使用し、落ち着いた雰囲気を出している。また、塗り絵や折り紙などで季節感を出し、作品をホールや居室の見える場所に飾っている。	ユニット間での造りの違いはあるが、各共用の空間は明るく不快な臭い等も無く、清潔に保たれている。ホールにはソファやテレビが置かれ、ゆったりと過ごせるよう配慮されている。時節に合った折紙や作品等を壁に飾り付け、常に季節感を感じられるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを設置しているが、通路沿いにあるため、利用者様が独りになれる空間までにはなっていない。殆どの利用者様が一日をホールで過ごすことが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた好みの寝具類を持ち込み、一人ひとりに合った居心地の良い居室に配慮しているが、一日の時間を居室で過ごす利用者様は少ないため、全体的に持ち込む品は少ない目である。	居室には使い慣れた家具や寝具の他、馴染みの品々が持ち込めることを本人及び家族に話しており、配偶者の位牌や仏壇を置いている入居者や家族の写真や手紙等を壁に飾っている入居者も見られ、各々の個性が活かされた居室になっている。居室は毎朝職員が掃除をしており、清潔な環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下とトイレの入口部分には「トイレ」の貼り紙で分かりやすいよう掲示している。浴室内は手すりの位置を変更したり、滑り止めマットを使用するなど安全面に配慮してきた。		